

〈その瞬間〉を負って生きた6人の戦後史

ヒロシマ [増補版] 〈新装版〉

ISBN ●978-4-588-31630-2 C0021 / 四六判上製 / 252ページ / 定価(1,500円 + 税)



ジョン・ハーシー 著

石川欣一, 谷本清, 明田川融 訳

法政大学出版局

2014年5月刊行

●内容紹介●

「20世紀アメリカ・ジャーナリズムの業績トップ100」の第1位に選ばれた、ピューリッツァ賞作家ハーシーによる史上初の原爆被害記録。1946年の取材による1～4章は、6人の被爆者の体験と見聞をリアルに描いて世界に原爆の惨禍を知らしめ、原水爆禁止・核廃絶の運動に影響を及ぼした。85年の再訪で成った5章「ヒロシマ その後」では、原爆症との闘い、市民としての生活・仕事・活動など、稀有な体験者たちの戦後史をヒューマンな筆致で跡づける。

ジョン・ハーシー『ヒロシマ』

1945年8月6日の朝、日本時間にしてきっかり8時15分、東洋製缶工場の人事課員佐々木とし子さんが、ちょうど、事務室の自席に腰をおろし、隣の机の女事務員に話しかけようとふりむいたその瞬間、原子爆弾が広島上空に一閃したのである。この同じ瞬間——藤井正和博士は、広島三角州を貫流する七つの川、その一つに臨む自分の病院の縁

側に悠々とあぐらをかいて、いまや『大阪朝日新聞』を読もうとしたところだった。仕立屋の後家さんの中村初代さんは、台所の窓際に立って、隣家の人が空襲に備える防火線の上に当たった自分の家をとりにこわしているのを眺めていた。イエズス会のドイツ人司祭ウィルヘルム・クラインゾルゲ神父は、同会の三階建ての宣教師館の三階で、アンダーシャツ一枚のまま簡易ベッドに横になり、イエズス会の雑誌『時

の声』を読んでいた。この市でも大きな近代的な赤十字病院の外科医、若い佐々木輝文氏は、ワッセルマン試験用の血液標本を手を持って、病院の長廊下を歩いていた。広島メソジスト教会牧師の谷本清氏は、市の西郊己斐の、とある豪家の門前に立ちどまり、リヤカーいっぱい積んだ荷物——誰もが予期していたB29の広島大空襲を恐れて疎開してきた荷物——を下ろしかけていた。原子爆弾

は10万人の人間を殺したが、以上の6人は生き残り組である。

John Hersey

1914年、中国に生まれる。イエール大学ならびにケンブリッジ大学に学び、シンクレア・ルイスの秘書を務めた後、ジャーナリストとして活動。1947年以降、おもにフィクションの執筆に打ち込む。ピューリッツァ賞・谷本清平和賞受賞。1993年死

一般財団法人

法政大学出版局

Hosei University Press

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3
3-2-3 Kudankita, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0073,
Japan

Tel. 03-5214-5540 | Fax. 03-5214-5542

Mail.sales@h-up.com

http://www.h-up.com/

ヒロシマ [増補版] 〈新装版〉

ISBN ●978-4-588-31630-2 C0021

四六判上製 / 252ページ / 定価(1,500円 + 税)

ご担当者様名

ご担当ジャンル

お電話番号

番線・帳合